

平成 24 年 7 月

お客様各位

日機装株式会社
メディカル事業本部

停電時の腹膜透析液の加温について

平成 24 年 6 月 25 日に、厚生労働省医政局より日本医療機器産業連合会を通じ “計画停電が実施された場合の医療機関等の対応について” の通知（以下、厚生労働省 6/25 付け事務連絡）がありました。今夏の電力需給対策については、節電の協力が呼びかけられておりますが、計画停電は不実施が原則とされています。しかしながら、電力需給の状況が厳しい関西、北海道、四国、九州各電力会社において、計画停電が実施される可能性があり、仮に計画停電が実施された場合、医療機関や在宅で医療機器を使用している患者様の生命・健康に支障が生じないよう、適切に対応することが求められています。

計画停電時のステイセーフ加温器の取り扱い、ならびにステイセーフバランス腹膜透析液の加温についてご案内いたします。

記

添付文書（【使用上の注意】7. 適用上の注意）にも記載の通り、下痢、腹痛、悪寒等の予防のため、本剤をあらかじめ体温程度に温めてから注入するように再確認をお願いいたします。

1. 停電時のステイセーフ加温器の使用について

本製品は、バッテリーバックアップ機能はありませんので停電時は加温されません。停電が予想される場合は、バッグ交換時間についてかかりつけの医療機関にご相談ください。以下に、停電時に電源が確保できる場合とできない場合の加温方法を記載いたしましたので、ご参照ください。

(1) 電源が確保できる場合の加温について

発電機などによって安定した電源が得られるような環境にあれば、その電力を利用して通常通りステイセーフ加温器のご使用が可能です。

《加温時間の目安》

液温 10℃ 2L × 3 バッグ入の場合 4.5 時間で 36℃

液温 25℃ 2L × 3 バッグ入の場合 3.0 時間で 36℃

加温される時間を考慮の上、ご準備いただきますようお願いいたします。また、カギのついた加温器（※）では、車のシガーソケットから電源を確保してご使用いただけます。その場合は、DC/AC インバーター（電気容量 60W 以上）をご用意ください。

※該当製造番号：000851～

2008 年 5 月以降に出荷した製品です。

カギがあります



(2) 電源が確保できない場合の加温について（加温器を使用しない方法）

◆ お湯を用いる場合

外袋を開封しない状態で、バッグ全体をビニール袋に入れて密封し、40℃前後（ぬるま湯状態）のお湯などで温めていただき、その後お湯から取り出し、タオル等でよく拭いてから外袋を開封し、透析液をご使用願います。

◆ 使い捨てカイロを用いる場合

使い捨てカイロを用いる場合は、保温シートを用いて加温していただくことが可能です。保温シートの内側にポケットがありますので、その中にカイロを入れてご使用ください。ただし、カイロ表面は 60℃以上の高温になる可能性がありますので、ご注意ください。

目安として、2L バッグにカイロ 8 個を使用し、約 5 時間で体温程度に温まります。（気温 23℃、液温 18℃で加温開始した実測値に基づく）

◆ その他の方法

お湯も使い捨てカイロも確保できない場合、透析液バッグを抱き、体温で温めて使用する方法もあります。

上記(2) 電源が確保できない場合の加温について(加温器を使用しない方法)の対応は、停電時のやむを得ない場合の応急処置であることをご理解願います。

東京都区部災害時透析医療ネットワーク作成の「透析患者災害対策マニュアル」もご参照ください。

http://tokyo-hd.jp/images/saigai_2010.pdf

ご不明な点は、弊社営業担当までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

以上